

3

木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで【資料1】を読みました。そして、【資料1】を読んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることにしました。【資料1】をよく読んであとの問いに答えましょう。

【資料1】

言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて規範的※1であると考えられていた言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなったり、使い方が変わっていきたりする場合は少なくありません。

ですから、意味や使い方に揺れが生じている言葉について、「この使い方だけが正しい」と決めつけるのは短絡的※2ともいえるでしょう。①この本を読むとお気づきになるとありますが、文化庁国語課では、言葉の意味について「正しい」「誤り」といった判断をせず、代わりに、②「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています。言葉の正誤※3を軽々しく決めることはできないと考えるからです。

とはいえ、どんな言葉を使ってもいい、というわけではありません。③コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。

④「言葉は生きている」とも言われます。その広がりや深さにも、触れていただきたいと考えています。

(文化庁国語課『文化庁国語課の勘違いしやすい日本語』による。)

※1 「規範」……………判断したり行動したりするときの手本。

※2 「短絡」……………よく考えもせずに、ものごとを簡単に結びつけてしまうこと。

※3 「文化庁」……………文化や芸術を広める仕事や、文化財を守る仕事などをする、国の機関。

— 木村さんは、【資料1】を読み、次の【木村さんの経験】を思い出しました。木村さんが経験を通して気づいたこととして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【木村さんの経験】

ひいおばあちゃんが「かわやはどこ。」と聞いたことがあったなあ。ぼくが「かわやって何。」とたずねたら、お父さんは「便所のことだよ。」と教えてくれたなあ。ぼくはトイレって言うんだけどな。

- 1 時代とともに言葉の意味が変わること。
- 2 時代とともにものの使い方が変わること。
- 3 世代によってもものの呼び方がちがうこと。
- 4 世代によって言葉の使い方は変わらないこと。



木村さん

二 木村さんは、【資料1】を読み、言葉は年月とともにどのような変化をするのか調べたいと思いましたが。そこで、次の【資料2】と【資料3】を読み、分かったことをあとの【木村さんのメモ】に整理しています。これらをよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【資料2】

「あたらしき」は新しい形

「ふんいき」ということばを「ふんいき」と言う人が多くなりました。こう言うと、「たいへんだ、日本語がこわれてしまっ！」と思う人がいるかもしれません。でも、心配しないでください。にたよるなことは、昔からよくあることです。「できたばかり、まだ古くない」という意味で、私たちは「新しい」と言いますが、でも、大昔の奈良時代には、「あらし」と言っていました。今でも、「新しく」という意味で「あらし」と言うでしょう。「あらし」は、大昔から使われていました。ところが、次の平安時代には「あらし」が「あらし」になりました。「た」と「ら」の順番が入れかわっていますね。つまり、「あらし」に比べれば、「あらし」は新しい形です。それが変化して、今では「あらし」になりました。

(飯間浩明『日本語をつかまえろ!』による。)

【資料3】

とてもできる・とても寒い

今、あなたは「勉強がとてもできる」という言い方を変だとは思わないでしょう。「とても」は「非常に」の意味を表します。ところが、100年ほど前の大正時代、作家の芥川龍之介は、「とても安い」「とても寒い」という言い方は新しいと書いています。それより前の時代には、「とてもかなわない」「とてもまもらない」のように、「とてもくらない」の形で言ったということです。つまり、大正時代よりも前は、「勉強がとてもできる」とは言わず、「ぼくには、そんなことはとてもできない」と言っていたんです。この場合の「とても」は、「どうしても」「どうして」という意味を表します。

こんな話を聞くと、「じゃあ、これからは『とてもできない』と言おう、『とてもできる』とは言わないようにしましょう」と思うかもしれません。でも、その必要はありません。

もっと古い時代、室町時代には、「とても」は「どうせ」の意味で使っていました。たとえば、「とても散るべき花」と言えば、「どうせ散る花」という意味です。

ことばを昔の意味だけで使おうと思ったら、現代では暮らせなくなってしまう。「昔はどうだったか」を知ることが大事ですが、「現代ではどう使われているか」を理解することも大事です。現代の人は、ことばを現代の意味で使うのが一番いいのです。

(飯間浩明『日本語をつかまえろ!』による。)

【木村さんのメモ】

言葉の変化について分かったこと

「あたりしい」は新しい形

(奈良時代) → (平安時代) → (今)
あたりし ↓ ア ↓ あたりしい

時代とともに言葉の形が変わる。

どうでもきる？できなう？

(室町時代) → (大正時代より前) → (今)
どうせ ↓ どうしても、どうてい ↓ 非常に

イ

(1) 【木村さんのメモ】の **ア** の中に入る適切な言葉を【資料2】の中から書きぬきましよう。

(2) 【木村さんのメモ】の **イ** に当てはまる内容として最も適切なものを、【資料3】を読み、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

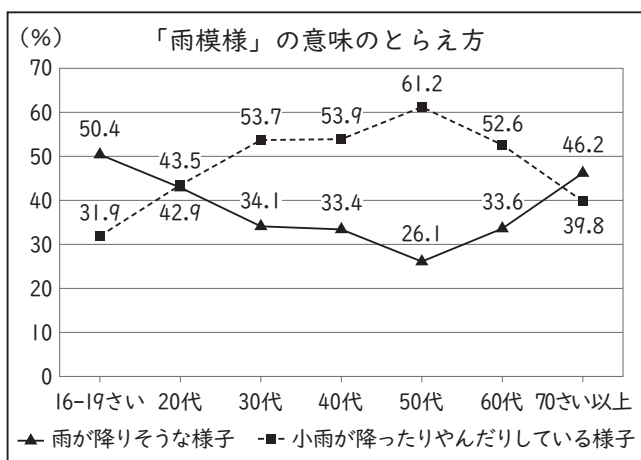
- 1 時代とともに言葉の意味が変わる。
- 2 時代とともにものの使い方が変わる。
- 3 世代によってももの呼び方がちがう。
- 4 世代によって言葉の使い方は変わらない。

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています。次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

ぼくが読んだ二つの資料（【資料2】、【資料3】）には、言葉が変化していることが書かれていたよ。【資料1】に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。

【資料4】



(文化庁『令和4年度国語に関する世論調査』による。)

私は、この資料（【資料4】）を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとりえ方にちがいがあることが分かるでしょ。



田中さん

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。



木村さん

こんなふうに、人によって言葉の意味のとりえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料1】に「A」と書かれているとおриだと思うよ。



田中さん

言葉の変化については、いろいろな考え方があんだね。

もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番なっとくしたことをまとめよう。



木村さん

(1) 【話し合いの様子】の A に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 【資料1】の 部①

2 【資料1】の 部②

3 【資料1】の 部③

4 【資料1】の 部④

(2) 木村さんは、【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 言葉の変化についてなっとくしたことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- なっとくした理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

※次の枠は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

--	--	--	--